第13回鎌倉検定 1級ガイダンス サマリー(要旨)

鎌倉観光文化検定1級ガイダンス 講師 原田寛氏

1. ガイダンスの趣旨

このガイダンスは、2・3級が全問4択であるのに対し、記述式問題など出題形式に異なる部分があるため、事前に出題方式などを説明するために設定したもので、対策講座ではありません。従って、ガイダンスを聞かなくても、過去の問題を鎌倉検定のホームページで見ていただければ、おおよその想像はしていただけると思われます(もちろん改善努力をしていますので、まったく同じ設問方式というわけではないと思われます)が、定員の関係等で本ガイダンスにご参加いただけなかった方のために、ガイダンスのサマリーを鎌倉検定ホームページに掲載致します。

2. 試験の全体像

1級は鎌倉に関する「正確で詳しい知識」を求める試験ですが、入試問題のように振り落とすことを主眼としていませんので、過度にマニアックな出題はできるだけ避けるようにしているようです。出題は全60問程度で、このうち4択問題が約1/3(20問程度)で、残りの2/3(40問 程度)が記述式の問題になると予想され、記述式のウェートが高いのが特徴です。平均的な1級受験者でも、解答に80分近い時間が想定され、全問を見直す時間はほとんど無いと思われますから、ケアレスミスに注意して慎重に解答して下さい。また、思い出せない設問に過度に時間を費やさず、次に進むなどの見極めが極めて大切になります。試験問題は『読んで分かる中世鎌倉年表』からも出題されることになっていますので、どの程度出題されるのか心配されている方もいらっしゃると思います。さまざまな出題方式の中に部分的に紛れ込んでいることがありますので、厳密に何問とは言いにくいのですが、数問程度に関係してくると思われます。例年の傾向を見ても、2〜3問程度ですから、満点を狙うなら別ですが、合格だけが目標であれば思い切ってサブテキストを捨ててしまうのも受験テクニックとしては一案だと思われます。また、昨年は久しぶりに大幅な改定を行ったテキストが出版されましたが、試験問題は3級、2級の受験時に使用した今までのテキスト

に準拠する経過措置がとられていますからご安心ください。新版改訂テキストで新たに追加された歴史部分やコラムなどは、この経過措置のため出題されることはありません。一方、今までのテキストが出版された時の経過措置は解除されていますから、それ以上古いテキストは不利になりますので、ご注意ください。毎回 10%以内とされているテキスト外の出題については、時事問題を押さえておく必要があります。例えば、今年は鎌倉文華館鶴岡ミュージアムがオープンされ、源氏と奥州藤原氏との過去を乗り越えて平泉町からハスが寄贈されたニュースがありました。また、東日本大震災以降、毎年行われている復興祈願祭は毎年輪番制で開催場所が変わっています。今年はどこだったのかなどの確認も必要です。これまでの傾向では鎌倉市のホームページ（昨年は鎌倉市のマスコットキャラクターや市有形文化財について出題）、 主要な寺社のホームページなども出典になっているようですので、チェックしておいてください。そして、最近の傾向として境内図や写真を使った出題が増加している点にも注意が必要です。テキストで具体的に触れていなくても、さすがにこの建物くらいは見ればわかるでしょうといったスタンスから、建物の写真を使った問題がテキスト外として出題されるケースがあります。いずれにしても、1 級の試験も今回で 11 年目になりますから、過去問の類似問題が出題される確率が高くなっています。入口と出口が逆になっていたりすると思われますが、過去問題は必ず丁寧に確認しておいて下さい。

3. 4 択問題

2・3 級の設問のように単純に正誤を問う問題だけではなく、多くの問題に若干の工夫が施されています。例えば合戦とそれに関わる人物、作家名・画家名と関連する寺院名、邸跡と寺院名、仏像と寺院名、山号と寺名、開山名や開基名、禅師号と寺名、歌碑や句碑と寺名、十井や五名水と寺名、建築物と寺社名、ハイキングコースと周辺に点在する物件などの組み合わせの正誤を問う問題が出る可能性があります。また、寺名を答える問題を、1 級らしく難しくする方法として、正式名（巨福山建長興国禅寺、瑞鹿山円覚興聖禅寺、亀谷山壽福金剛禅寺、祇園山安養院田代寺、大異山高徳院清浄泉寺など）を答えさせるケースも考えられます。仏像については有名な仏像や伝説、ニックネームのある仏像（東慶寺水月観音像、来迎寺如

意輪観音像、浄光明寺阿弥陀三尊像、極楽寺清凉寺式釈迦如来像など）、文化財指定という観点に加えて、七福神や十三仏と寺社名という観点を忘れないで下さい。また、庭園のうち国名勝に指定されているものもチェックが必要です。
特定の事柄や場所、人物などについて記述された文章がいくつかある中で、「以下の源頼朝について書かれた文章のうち、誤っているものは幾つあるか」といったように、正しいもの、あるいは間違ったものが幾つあるかを 4 択で答えるような問題も想定しておいて下さい。この類の問題で、設問の流れはあっているのですが、該当する寺名や氏名などの固有名詞だけが入れ替わっている場合がありますから特に注意が必要です。更に、年号をストレー トに問う問題は今までほとんど出題されたことがありませんが、何人かの人物やいくつかの場所などを並べて、正しい順番はどれかといった問題も想定されます。執権の順番や有名御家人の年代順や死亡した年代順、寺社の創建年、主要な寺の有名な住職の順、戦乱の年代などの年代順を問う類です。いずれにしても、2・3 級のように消去法で正解を導くのは難しいので、やはり正確で詳しい知識が求められることになります。
また、写真を見て答える問題が毎年出題されていますので、理想的には鎌倉を実地に歩くことをお勧めしますが、最低限テキスト掲載の写真や口絵とそのキャプション(写真を説明するために添えられた文字情報) については入念にチェックしておきましょう。「以下の写真のうち国宝に指定されているのはどれか」とか、「写真の寺にある文化財は以下のどれか」といった類いの問題も過去に出題されています。特に注意が必要なのは、テキストの文化財の項目では、国宝についてしか説明していませんが、各寺院の項目では国重文が表記されています。国重文リストを作成しておいた方が安全です。同様に、行事のうち県無形文化財に指定されているもの、植物で市の天然記念物に指定されているもの、景観重要建築物で国登録有形文化財に指定されているものなども、文末に無機的に書いてあるだけなので、リスト作成などで確認しておいてください。また、記述式では以下の写真の寺社名や建物名を書きなさいといった類いの出題も考えられます。大寺院については、境内の塔頭名や建物名もチェックしておいた方が安心です。「ooo について述べた以下の文章のうち正しい(誤った)ものは幾つあ

るか」といった問題を想定して、4 択にしやすい項目(2〜3 つしか重要点がなければ 4 択にしづらい)は読みこんでおく必要があります。

4. 記述式問題

あくまでも記述式の問題であって、論述式(○○について述べよ)の問題は出題されません。具体的には、ある文章の中に何箇所かの虫食いがあり、そのカッコ内を埋める形式がこれまでの傾向です。虫食い 2 箇所を両方正解して 2 点の配点になっている問題については、片方だけ正解しても得点されません。また、設問によっては「漢字で記入せよ」などと最初に記述のルールが明示されていますので、見落とさないように注意してください。

「漢字で」と指定されている場合は、テキストに記載されている漢字を記入しないと得点されませんから注意して下さい。あまりに常識的なものを除いて、一般名詞は漢字でも、平仮名、カタカナでも構わないという設問になっています。一方、鎌倉に関係の深い人物や書名、地名などの固有名詞を答えさせる場合に、漢字で記入せよという指示が入っています。そこで、“佛”日庵、“圓應”寺などのように、テキストでの表記が旧漢字になっている名称をチェックしておくのは当然ですが、“化”粧坂ではなく“仮”粧坂、朝“比”奈ではなく朝“夷”奈など、テキスト準拠の表記や、他にも“太”平記、“大”平山のようにまぎらわしい文字や、甘縄神明“神社”のような固有名詞を明確にしておく必要があります。七切通の名称について「坂」と「切通」が混在していますから注意してください。また、史跡指定名称が「切通し」ではなく「切通」となっている点も注意が必要です。また虫食いの箇所が(○○)“寺”となっているところに(建長寺)のように記入してしまうと、結果として建長寺“寺”のように“寺”の字が重複してしまいますので注意して下さい。その他では船“おろし”と船“祝い”、“潮”神楽と“汐” まつりなど、まぎらわしい名称を正確に書き分けられるようにしておきましょう。ルビ(ふりがな)振り問題については、散在ヶ池(さんざがいけ)、仮粧坂（けわいざか）、亀ヶ谷坂（かめがやつざか）、十二所（じゅうにそ）、筋違橋(すじかえばし)、針磨橋（はりすりばし）、白鷺池（びゃくろち）、神戸川（ごうどがわ）、小動神社（こゆるぎじんじゃ）、大巧寺(だいぎょうじ)、錦屏山（きんぴょうざん）、鷲峰山（じゅぶせん）九品寺(くほんじ)、葛原岡神社(くずはらおかじんじゃ)、青蓮寺（しょうれん

じ）、補陀洛寺(ふだらくじ)、光触寺（こうそくじ）、鉄ノ井(くろがねのい)、底脱ノ井(そこぬけのい)、手斧始式(ちょうなはじめしき)、草鹿(くさじし)、大注連祭(おおじめまつり)のような、誤読しがちな単語をチェックして下さい。また、難読の文化財名（例：籬菊螺鈿蒔絵硯箱、初音蒔絵火取母、葡萄蒔絵螺鈿聖餅箱、当麻曼荼羅縁起絵巻など）も注意してください。ルビ振り問題では、人名はこれまでに三浦大介義明 (みうらおおすけよしあき)以外に出題されたことはありません。

5. 効果的対処法

有名寺社(鶴岡八幡宮、鎌倉宮、建長寺、円覚寺、東慶寺、覚園寺、瑞泉寺、光明寺、壽福寺、高徳院、長谷寺など)についてはキーワードを関連づけて覚えておくと効果的だと思われます。建長寺を例にすると、日本初の禅専修道場、鎌倉五山第一位、開山は蘭渓道隆(大覚禅師-日本初の禅師号)、開基は第五代執権北条時頼(鉢の木伝説)、伽藍配置は中国風の一直線、梵鐘は国宝で物部重光作(鎌倉三名鐘)、法堂の天井画は小泉淳作、地獄谷(心平地蔵)、法語規則(国宝)、ビャクシン(開山お手植え)、修行道場は西来庵、葛西善蔵『おせい』、半僧坊大権現(烏天狗)などがつながっていれば解答のヒントになると思われます。加えて、国指定史跡なども確実に記憶しておきましょう。「以下の七切通のうちで国史跡に指定されていないものはどれか」といった類の設問が考えられます。また、主要な歴史上の人物(源氏三代、主要な執権[1・2・3・5・8・9 代]、主要な足利氏、名僧など)についても、同様の勉強法をお薦めします。どちらの例も、歴史・寺社・文化財・文学など、複数の章にまたがっている項目があるため、このように一度整理しておくと効果的です。さらに、出題者が実際に問題を作成するときのことを考えると、別称やニックネームのある寺(竜巻寺・ アジサイ寺・コケ寺など)や伝説が残されている仏像(頬焼阿弥陀・身代わり地蔵・矢拾地蔵など)などは設問を作りやすいので要チェックと思われます。植物に関連した設問では、各植物を代表する寺社(たいていは各植物の項の最初の方に記述されています)や、英勝寺のヤマブキのような伝説や史実にまつわる植物、固有名称のある植物(覚園寺の太郎庵・英勝寺の侘助・荏柄天神社の古代青軸・安國論寺の源平枝垂れ・瑞泉寺のオウバイ〈牧野博士命名〉など)も設問を作りやすいため、出題されやすい傾向が見られます。玉縄ザクラのように固有名称が複数ある植物は、それだけで一問作成できますの

で要注意です。その他では、滑川なら上流から順番に七つの別称、ハイキングコースなら起点と終点、沿線の史跡など、文学では書名、作者、関連寺社などを整理しておくと良いと思われます。また、名誉市民（初代、女の初代、最新）なども一応頭に入れておきましょう。最後に見落としがちですが、口絵とそのキャプションにも十分注意してください。

【質疑応答】

Q.建長寺の開山忌の開催日が旧版は 8 月 23 日、新版は 7 月 23 日と不統一になっていますが。

A.出版物はどうしても出版時期の情報に基づいて記述されています。建長寺の開山忌はかつて 8 月でしたが、近年 7 月に変更になりました。このような不統一がある場合が両方正解となる場合もありますが、商工会議所のホームページの正誤表に記載されている場合は、それに準拠します。したがって、正誤表は必ずチェックしてテキストに転記してください。

Q.書名の表記について、鎌倉中世歴史年表と検定テキストの書名表記に不統一があるのですが。

A.鎌倉中世歴史年表は、サブテキストとしては貴重な本ですが、残念ながらテキストとの間に表記統一がされていません。したがって検定の回答はすべてテキ

スト準拠になります。用字用語については、サブテキストに準拠していませんから注意してください。

Q.最新版のテキストとそれ以前のものとでは、大正大地震の表記が違っていますが。

A.正誤処理されていませんので、本年についてはどちらで回答していただいても正解となります。

※今年は表記の統一についての質問に終始しましたが、公式テキスト掲載の表記は発刊時の情報に基づいています。出版物の宿命として、その後事情が変更する場合もありますので、鎌倉商工会議所のホームページ上に記載されている正誤表にはご注意ください。